

会 議 録

会 議 の 名 称	弘前れんが倉庫美術館運営審議会 第1回会議
開 催 年 月 日	令和2年8月20日(木)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後1時40分から午後2時20分まで
開 催 場 所	弘前れんが倉庫美術館 スタジオB
議 長 等 の 氏 名	仮議長 吉岡 利忠 議 長 須藤 弘敏
出 席 者	会長 須藤 弘敏 会長職務代理者 郡 千寿子 委員 服部 浩之 委員 吉岡 利忠 委員 岡井 眞 委員 佐々木薫子 委員 佐々木啓介 委員 梅原亜矢子
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	都市整備部都市計画課長兼美術館周辺活性化室長 中田 和人 同室長補佐 櫻庭 智之 同室 主幹 竹内 良定 同室 総括主査 齊藤 将寿 同室 技師 三上 洋祐
会 議 の 次 第	1 開会 2 委員ご紹介 3 案件審議 4 その他 5 閉会
会 議 の 議 題	1 会長の互選 2 会長職務代理者の指名
会 議 結 果	会長は委員の互選により、須藤弘敏氏、会長職務代理者は会長の指名により、郡千寿子氏に決定した。
会 議 資 料 の 名 称	・ 次第、席図 ・ 委員名簿 ・ 弘前れんが倉庫美術館 関係例規

■ 1 開会 《司会：中田室長により開会》

■ 2 委員ご紹介 《司会から委員1名ずつご紹介》

■ 3 案件審議 《司会から仮議長：吉岡委員を提案、承認後に審議》

□ (1) 会長の互選

(仮議長)

ご指名がありましたので、暫し仮議長を務めます。議事の進行については、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

では、案件の1つ目、会長の互選について、本会の運営を定める「弘前れんが倉庫美術館運営審議会運営規則」第3条第1項の規定では、「会長は、委員の互選により定める。」としております。

会長について、自薦、他薦を問わず、ご意見はないでしょうか。

(岡井委員)

はい。

(仮議長)

岡井委員、どうぞ。

(岡井委員)

弘前大学 名誉教授の須藤弘敏先生にお願いしたいと思います。

(仮議長)

須藤委員を会長に、という意見ですが、他にご意見はありますでしょうか。
<「なし」の声>

(仮議長)

他にご意見がないようですので、お諮りいたします。

会長を須藤委員に決定することについて、ご異議ないでしょうか。

<各委員了承>

(仮議長)

ご異議がないようですので、会長を須藤委員に決定いたします。

会長が決定しましたので、本審議会運営規則第3条第2項の規定に基づき、以後の進行は、会議の議長となる会長に引き継ぎ、仮議長の務めを終えさせていただきます。

□ (2) 会長職務代理者の指名

(議長)

では、本審議会運営規則第3条第2項の規定に基づき、会議の議長を務めます。

議事の進行、本審議会の運営に当たっては、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

次に、会長の職務代理者を決定したいと思います。

職務代理者は、本審議会運営規則第3条第3項の規定に基づき、あらかじめ会長が指名することとなっております。

従って、私から職務代理者として、郡委員を指名したいと思います。郡委員よろしいでしょうか。

<郡委員、一礼（了解）>

（議長）

では、郡委員にお願いいたします。

■ 4 その他

（議長）

次に、その他ですが、まずは、委員の皆様から何かございますか。

せっかくの機会なので、質問や意見など、大丈夫でしょうか。

<各委員なし>

（議長）

それでは、事務局から何かございますか。

（市）

事務局からは、次回会議についてでございます。

次回会議では、来年度から本格的に行う運営・維持管理業務実績の審査について、どのように行っていくのかといった部分をあらかじめご説明したいと思っております。

その審査方法は、本日の会議において、本審議会会長が決まりましたので、会長にも事前にご相談しながら、皆様にお示ししたいと思っております。

なお、次回会議では、そのご説明と併せて、次回の展覧会、秋冬プログラムもご覧いただきたいので、開催時期としては、次回展覧会が始まる10月10日以降、早ければ11月、遅くとも来年の2月迄には開催したいと思っております。

その際は、事前に日程調整の上、ご案内差し上げますので、よろしくお願いいたします。

（議長）

市の説明について、ご質問等ありますでしょうか。

<各委員なし>

（議長）

ご質問等が無いようです。最後に私から、只今の審査方法と時期の件に関連するお話をいたします。

この審議会は、本日、組織しましたが、今年以降少なくとも3年間、運営の実績を受けて、本格的には来年度からの審議になろうかと思っております。

これは、運営事業者の選任は、開館以前に選定会議等があり、さらにオープ

ンまで市と事業者の間でも、逐一、細かな協議があったように伺っております。

そのため、その点での遺漏等は恐らく無いものだと思っておりますが、実際に運営し始めてから、色々な問題がこれから生じてくるであろうし、あるいは、さらに期待が大きく膨らむことだろうと思います。

従って、今年度は、年度末に確認の会議を開いて終わりというのではなく、ある程度は見ていきたいが、本日は、委員の皆様のご意見、具体的には、今後、美術館に期待すること、あるいは、美術館そのものではなく、市と美術館の関係についての要望など、現時点での委員の皆様のお考えをお聞きできればと思っております。

せっかくの機会ですので、皆様から一言ずつ、そのような意見をお伺いできればと思います。

順番については、こちらの服部委員から順にお願いいたします。

(服部委員)

今後の美術館の運営について、ということよろしいでしょうか。

(議長)

この運営審議会全体を含めて。

あらかじめ申し上げますが、美術館の運営そのものについて、我々が今、事業者と話し合うのではないため、直接伝わるわけではなく、市からのワンクッションとなります。

なお、次回以降の会議の場には、できれば事業者もオブザーバーとして加わり、直接、答えてもらうことがあれば、答えてもらいたいと思っておりました。

そのため、あまり細かいことというよりは、大きな目をお願いしたいと思います。

(服部委員)

よろしく申し上げます。服部と申します。

私は普段、秋田の秋田公立美術大学というところで教員をしておりますが、実は2016年まで青森市の国際芸術センター青森で学芸員の仕事をしており、その関係で弘前は、度々、来させていただいていました。

美術館は、建設当時、学生と一緒に少しだけ見学をしたことがあったくらいで、その後開館してからは初めて来ましたので、まだ展覧会も拝見していないという状況であります。

ただ、この煉瓦倉庫自体が、青森県、あるいは弘前市に少しでも関心がある人ですと、ここの歴史がすごいということがまず分かっていることだと思います。

今、海外から日本に渡航することがすごく難しいですが、建築家の田根剛氏もヨーロッパを拠点に様々なプロジェクトを実現しており、そういう方が建築に携われたことも含めて、世界中から注目をされる可能性があって、なお且つ、青森県は、21世紀に入って現代アートを中心に据えた、非常に先進的な取組を様々な自治体実践しているということで、本当に日本中からも注目されてい

ると思います。

おそらく、これまで第三世代の美術館ということが言われていたと思いますが、その先のさらに新しい世代の美術館として、新しい活動を築いていく、引っ張っていくような場所になるのではないかと期待しています。

運営そのものというよりは、美術館が、ここだからこそ生まれるもの、作品、あるいは活動を広く世界にも伝えていけるような場になると、より成長していける形が生まれるのかなと思っています。

(議長)

ありがとうございました。それでは次に、吉岡委員からお願いします。

(吉岡委員)

はい。私は、生まれも育ちも弘前市で、自宅もここからちょっと離れたところにありますが、毎日、この辺を昔から散歩していて、あそこの煉瓦少し崩れそうだが、何とかならないかと思っていました。

前には、広い庭があるし、これを何とかうまい具合に活性できないものかというのを考えていました。

それで私、医学部を出ていて、特に人体の構造とか、人間の身体は非常に美しいし、それから美術を志すとともに、美術に造詣が深い医師は、世界中、ノーベル賞を取った人もたくさんいるし、憧れていました。

そういうことから、私も美術というか、絵画などに非常に興味を持っています。

それで、青森県は、かなり美術家、芸術家が非常に多いと思います。

青森県民、また、中央の人が知らないということもありますし、そういった人たちは是非、少なくとも県民の皆様知って欲しいというのがあって、それならこの煉瓦倉庫を、東京の三菱一号館や東京駅の煉瓦の美術館のようなものに利用できないかと思っていました。

この委員にならせてもらい、非常にうれしく思っています。

僕としては、色んな人、有名な人の美術を展示するものはもちろん、それはそれでいいですが、地元の人がこういったところで、短期間でもいいので、市民や県内外の皆さんにお披露目できないかと考えています。

この3年間、務めさせていただきたいと思っています。

(議長)

ありがとうございました。では、郡委員からお願いします。

(郡委員)

弘前大学の郡と申します。

このプロジェクトに関わっておられる田根氏とは事前にご挨拶させていただいたこともあって、ご縁を感じています。

私自身は、関西の人間ですが、この弘前というのは、本当にどの地域にも負けない、歴史的・文化的な土壌というものを持っており、地元では有名ですが、日本全国、また世界レベルになると、中々知っていただけていないということ

を非常に残念な思いを持っていました。

弘前大学のコンセプトも、“世界に発信し、地域と共に創造する”としています。

それとも非常に合致していますし、それからこの歴史的・文化的土壌、こういうものは一朝一夕にできません。

ですから、せっかくの脈々と続いてきている歴史を大事にしつつ、新しい現代アート、次世代に向けたものを発信するというこの美術館の刺激的な試みには、非常に期待しています。

弘前市は学生が多く集う街です。

学生がこんなにたくさん身近にいるのは珍しいと田根氏も、それから大阪大学の学芸員の方も話しておられました。

今、大学は、どんどん郊外に出て行って、都心部に無いというのが、実情なので、この弘前は、非常に珍しい場所です。

ですから是非、そのメリットを生かして、学生もどンドンと、こちらに出入りさせていただいて、学生、市民が一緒になって、この美術館を将来に向けて、是非、単なる鑑賞するだけではなく、動きのあるものにしていただきたいと思っています。

美術館の開館を本学の学生も、教職員も楽しみにしていました。

私は、大学の立場ではなくて、一市民として今回の審議委員に携わらせていただきますが、是非、これから皆さんと一緒に美術館の運営がより良くなっていくように、務めさせていただきたいと思っています。

どうかよろしく願いいたします。

(議長)

はい。ありがとうございました。それでは、岡井委員お願いいたします。

(岡井委員)

公認会計士・税理士の岡井でございます。

弘前出身で、弘前大学を卒業しております。

去年の7月迄、人文学部の同窓会長を務めていました。

ここは、地元なので、吉井酒造さんという方が持っていた土地であります。

ようやく弘前市に売ってくれたので、この美術館をつくる運びになったと、大変喜んでいます。

数年前に、この建物を修復する、それから更に、そのものの運営に携わる業者を定める会議があり、私もその委員として、一人参加しました。

2つの提案があって、どちらかを選んでもらうということであったが、その時に予算やら、運営の仕方というものも拝聴しました。

まず、コンセプトの中に、民間企業を利用するということは大変結構で、そしてまた、ここに芸術家に住んでもらい、ここで作ってもらうというものには大変感激しました。非常に期待しています。

私また、この委員にさせていただいたので、多分、予算などもあると思いま

すので、拝見し、来年になると実績が出ますので、ちょっと比較検討させてもらいたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(議長)

ありがとうございました。それでは、佐々木委員からお願いします。

(佐々木薫子委員)

あおもり創生パートナーズの佐々木と申します。

私は、今年の3月迄、青森銀行の弘前市役所出張所で所長を務めており、4年間そこにおりましたが、私が市役所出張所にいた頃、正にこの美術館の構想を一生懸命、市の方が考えていましたので、この美術館が出来上がる前の吉井酒造さんのままの中も拝見し、そういう流れも色々見させていただいた中で、また、こういう形で携われるということが非常に嬉しく思っています。

今回、私はSPC経営を特に見て欲しいということで、依頼を受けましたが、確かに歴史的であったり、文化であったり、そういう拠点としての美術館ですが、やはり事業としても、うまくいかないと駄目なのかなあと思っています。

そのためには、せっかく元々、シードルを造り始めた吉井酒造さんがこのような美術館に生まれ変わって、しかも隣にはシードルの醸造所も併設されているということで、非常にストーリー性がある美術館だと思っており、そういうことを外に広く発信して、また、たくさんの方にいかに来ていただくか、そういうところが1つあります。

あとは先程、学生がたくさんいるとか、市民の方の思いがと、委員の方から出ていましたので、市民も一緒になってつくっていく美術館、そういうところが今後、必要になってくると思っていますので、私もこれを機会にたくさん勉強させてもらいながら、少しでもこの美術館の事業がうまくいくように話をさせていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(議長)

はい。ありがとうございました。では、佐々木委員お願いいたします。

(佐々木啓介委員)

トップテラーという洋服の販売をしております佐々木と申します。

よろしく願いいたします。

個人的にかなり美術が好きで、米国の美術館など色々回っており、国内の美術館も頻繁に行っていて、県内に戻ってからも、ハングリーに飛び回っていました。

ただ、美術というものは、非常に経済に左右されるというか、どうしても最後の最後に回され、私どもの生業である紳士服も、最後に回されるので、それと同じく、非常に皆さん、経営という面で四苦八苦されております。

事実、本当にホテルニューオータニ マリー・ローランサン美術館も閉鎖されたということも聞いており、中々それを維持することが難しい。

これはもちろん世界的にもそうですが、デトロイト美術館の例を見ても、市民が地元のものという愛着が、やはり最後は、守り抜けるのかなあと思っています。

なので、地元の人たちが惚れ込む美術館、もちろん煉瓦倉庫そのものが美術、アートだと思います。

中身において、プロの方々だけの目線になってしまうと、頭でっかちになり、非常に危険なので、やはり市民の目線に沿ったもので行かなければならないと思います。

私どもは、小さいお店をやっていて、色んな人たちとの接点から、今のコロナの状況を見ている、どんどん厳しくなって、本当にどうなっていくのかというぐらいのものを犇々（ひしひし）と感じております。

私がどうしても懸念するのが、どうしてもこういうものをやると、頭でっかちになりがちですが、市民一人一人が本当に応援して、初めて成り立っていくと思いますので、是非、そういう運営を含め、やっていただければと思っています。

今まで弘前に美術館はなく、その代わりになる博物館がその役割を担っていました。

去年の光ミュージアムのアートを引っ張ってきたりとか、今年もまた山形美術館の収蔵品の展示予定のある博物館とのすみ分けはどうなのか。

あるいは、もっと広い意味で、弘前、あるいは、青森全体の部分、十和田、県美も含め、全ての広い視野の下ですみ分けをしていかないと、やはり同じ、その行政だけの話になると、同じことの繰り返しでお金だけ出て行く、そういうことにもなりかねないのではないかと心配しております。

従って、そのすみ分けも含めた努力をまず、適切にもって行っていただきたい、是非とも。

それで1つだけ提案で、博物館など頻繁に行きますが、最近、自分も65歳以上で無料で入れます。

それは、すごくうれしいですが、でもこれぐらいの年齢になりますと、別に入場料が払えなくはないですが、気遣いそのようなことになる。

ご提案は、ドネーションボックス、いわゆる寄附金みたいな形で、それで美術品購入まではいかないでしょうが、気持ちを表せるものがあるのもいいと思います。

そうすると気兼ねなく、ゆっくり見られるという感じがして、海外のように何かそのようなものがあるのもいいのではと思います。

何かそういう、大きなお金でなくて、美術に対し、次の世代に繋ぐということだと思います。

弘前には学生がすごく多いが、できればもっと下の小学生、幼稚園児からできるだけたくさんの美術品を見せてあげたい。

そのような市民の目線で、私はこれからも見させていただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

(議長)

ありがとうございました。では、梅原委員お願いします。

(梅原委員)

はい。初めまして、梅原と申します。

普段は、百石町にある百石町展示館の中にありますコトリ café というカフェの店長をしており、あまりこのような会議に出ることがないので、今日はすごく緊張しています。

私と煉瓦倉庫の関わりは、過去 2002 年、2005 年、2006 年と 3 回にわたって開催された奈良美智展のボランティアスタッフを務めたことにあります。

その時は、須藤先生に大変お世話になり、会場づくりから全て色んなことをしましたが、最初の煉瓦倉庫の掃除から始めたので、埃で覆われた壁をほうきで払い、中から煉瓦の壁が出てきたりなど、すごくその時も感動しましたが、その汚れていた倉庫が今、こんな立派な美術館になったことが、すごく感慨深いです。

先日、現在の展示を拝見しましたが、やはり建物のすごさに圧倒され、本当によくここまで造ってくださったと思って、すごく感動しました。

やはり美術館を見て思うのは、すごく展示もすばらしいし、素敵だが、個人的な意見としては、奈良美智氏の作品がもっとあればいいと思ってしまいました。

それは、私の友人、知り合いなども言っていますが、いずれそんな日もくれればいいなと思っています。

それで、恐らくこの中で一番、一般市民というか、素朴な疑問や意見などを率直に言うことができたらと思っていますので、よろしく願いいたします。

(議長)

皆さん、本当に貴重なご意見ありがとうございました。

一々、頷くことばかりで。

(須藤会長)

最後に会長として、少し挨拶させていただきます。

私は、大学時代、学部で博物館経営論を担当して、大学院で地域文化政策というものを担当していましたので、こういうお役目を仰せつかったと思いますが、全国、あるいは海外のミュージアムを含め、日本は特殊だと、いつも学生に言ってきました。

つまり、自治体が博物館、美術館を造るのは当たり前だと日本人は思っていますが、これは日本特有の偏った現象で、さらにとっても歴史が浅いです。

昭和 40 年代から、一気に各自治体が競って、博物館や美術館や、あるいは文化ホールを次々造ってきて、その頃は、各自治体でも文化政策に非常に熱心でしたが、時が経つにつれてそれが薄れ、博物館は博物館で何かしている、美術館でもしているといったようになってしまいました。

せつかく立派な施設がありながら、地元の県民や市民とは、ちょっと乖離した現象になってきたきらいがあります。

そういう時に、今、梅原さんがお話ししたとおりですが、私、2002 年から 3

回にわたった奈良美智展の実行委員をして、全員ボランティアで、ほとんど市民ばかりで構成されましたが、3回合わせて16万人の来場者を得ました。

そして、梅原さん共々、我々関わったスタッフがいつも心に思っているのは、最終的に1千200万円の黒字で終わったということでもあります。

それについては、弘前税務署から雑所得扱いで納めるようにという話がきまして、それでメモリアルドッグを奈良氏に作ってもらい、弘前市に寄贈して、相馬市長とここで開眼式をしたということがあります。

もう1つ実は、2002年の展覧会において、1万枚のアンケート用紙を入場者の方に配布し、3千300人以上の回答を得ましたが、1つの展覧会で3千人以上のアンケートを得るということは、服部委員がよくご存じだと思いますが、全国どこでも例が無いくらいです。

アンケートを書くこと自体に、来場者の方々が本当に生き生きして、とても積極的な意見を書いてくれましたが、その時に、この煉瓦倉庫を将来どうしたらいいと思いますかという質問に対し、多くの方が是非美術館にして欲しいと、7割くらいの方が回答しました。

アンケートには、色んなご意見があったものの、皆さん共通していたのが、周りの環境がいいということでもあります。

だから、煉瓦倉庫も魅力的ですが、煉瓦倉庫を取り囲む住吉神社、あるいはその弘南鉄道であるとか、そして五重塔、岩木山が見え、そしてもちろん昇天教会の鐘の音が聞こえること。

そういう市民の愛着に加え、アンケートで分かったのは、16万人の来場者のうちの4割が弘前市民だったということで、単純に考えると、3回開催しているため、延べとしても、1万7千人以上の弘前市民はこの煉瓦倉庫に入って展覧会を見て、あの奈良美智展を体験してしまっているということになります。

これはもう、服部委員もよくご存じのとおり、煉瓦倉庫で行った展覧会は、実はものすごいレベルの高いアート経験だった。

それを知っている弘前市民は、今度、これだけ立派な建物になって、本当に感慨深いですが、生半可な展示では、納得しないだろうと、先程、佐々木啓介委員や梅原委員からもお話しがありましたが、やはり内容に対する市民の期待がとても大きいと思っていました。

各委員もお話ししてくれましたが、本当に市民の立場に立って、それこそそれが本当の自治体立のミュージアムの仕事だと思いますので、運営事業者は運営事業者としての進むべきプログラムがあると思いますが、私自身は、運営審議会委員としては、学識経験者とかではなくて、そういうアート経験をここでさせていただいた一市民としての思いを大切にしたいと思っていました。

それからもう1点だけ、佐々木啓介委員もお話ししたのですが、弘前市内には、他にも市の展示施設があります。

博物館や高岡の森弘前藩歴史館や百石町展示館、それらとこの美術館がどう関係性を持つのか。

現時点では、このれんが倉庫美術館は、市長部局の都市計画課が担当されていますが、博物館や高岡の森は、教育長部局で、教育委員会の所管で、予算も正直言えば、数倍の開きがあります。

ですから、ここは現代美術館だから、お金がかかって当たり前とか、現代美術館だからという言い訳は、今後、あんまりしないでいただきたい。

市民からすれば、同じ市民の税金が基になって、実際のところ、たとえPFI事業になっても、サービス対価ということで、結局市から相当な額が支出されていきますので、そういう立場からいくと、やはり市の施設全体の有機的な連携、その上で、ACAC、(十和田市) 現美、県美などとのつながりも大切なのだろうと思います。

従って、市の中の他の施設とは特化した違うものだというような位置付け、そこは変え難い部分はあるとは思いますが、市全体の、例えば、観光政策とか、色んな政策の中では、やはり4つを生かしていってもらえたらいいのではないかと強く願っていました。

ただ、この美術館が今年度、華々しいスタートを切れず、苦しい状況ですが、どれだけの実績を今年中に、まず、年末くらいまで上げてくれるのか、非常に興味を持っています。

それから、各委員からの繰り返しになりますが、市民が何らかの形で関与できる、そういうシステムができれば、もっと市民がこの美術館の運営や展示に対して、強い関心を持ってくれるのではないかと思います。

幸いにして、奈良展を開催したときに、市民はここに集うことを非常に積極的に選んでくれましたので、また何かの形でこの指とまれみたいなことを、美術館が声をかけてくれれば、おそらく多くの方が、ボランティアだけではなく、色んな形でここを利用してくれることになるだろうし、それが一番望ましいことであろうというような期待があります。

すいません、長々と、申し上げてしまいましたが。

(議長)

あと何かまた、もう一言だけ、言っておきたいというようなことはないでしょうか。

後ほど、ご意見をいただいても結構ですが、それではこれで閉めさせていただきます。今、皆さんからご意見をいただいたのは、実は、本来であれば3 事業説明や4 視察の後でもよかったのですが、敢えて私からこれを議事録に残して欲しいということで、議事の中でお伺いした次第です。

■ 5 閉会

(議長)

それでは、会議としての本日の案件は全て終了しましたので、会議を閉じたいと思います。ご協力に御礼申し上げ、進行を事務局にお返しいたします。

その他必要事項	<ul style="list-style-type: none">・会議の公開区分 公開・傍聴者数 ー・取材 3社 陸奥新報社、青森テレビ、東奥日報社
---------	--